

哲学委員会いのちと心を考える分科会（第25期・第5回）

議事要旨

日時：2021年5月16日 17:00～20:00（オンライン開催）

出席者：田坂さつき、加藤泰史、香川知晶、安藤泰至、松原洋子、建石真公子、一ノ瀬正樹、島藺進、小島優子、豊田光世、八木久美子、土井健司

参考人：堂圀俊彦〔静岡大学教授〕、竹下啓（東海大学教授）

＊参考人招致に先立って議事次第に従って以下の議題が議論され承認された。

（1）前回議事録の承認

標記の件に関して議長（土井健司委員長）から説明があり、前々回の議事録も含めて承認された。

（2）「ゲノム編集」に関する提言英訳の報告

標記の件に関して田坂委員から現状の報告があり、了承された。

（3）トリアージに関するシンポジウム企画

標記の件に先立ち、12月の哲学委員会主催のシンポジウムに関して議長から企画内容について報告があったのちに、当分科会主催のトリアージに関するシンポジウム企画に関して原案（「コロナ禍におけるトリアージの問題—諸外国における事例を中心に」）の説明があった。司会を香川委員、開会挨拶を土井委員長、閉会挨拶を田坂副委員長が担当し、連携会員の建石委員・加藤委員と学術会議外から鐘氏（大谷大学）が登壇することが承認され、さらに日本の現状に関する報告者を幹事会で決めることが承認された。なお、開催日は8月29日に決定した。また、分科会主催で、生命倫理学会と科研費S（代表 加藤）とは共催という形態を取るようになった。日本の現状に関する報告者を含めて、最終案は執行部に一任された。

（4）堂圀俊彦氏〔静岡大学学術院人文社会科学領域教授〕・竹下啓氏（東海大学医学部教授）「COVID-19の感染爆発時における人工呼吸器の配分を判断するプロセスについて提言」について

参考招致人の両氏の発表ののち、予定時間を越えて活発な議論が交わされたが、大変有益であった。

（5）その他

日本哲学会の公募ワークショップに関して田坂委員から無事に終了した旨の報告があった。

以上